

[国際戦略総合特区分野]
総合特別区域評価・調査検討会における評価結果

令和6年度

グリーンアジア国際戦略総合特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i)、ii)の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

3.5

i)取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	当地域が貢献する環境を軸とした産業の年間売上高	66%	3
2	特区に係る支援措置を活用して設備投資を行った企業数	81%	4

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 0 + 4 \times 1 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 2 = 3.5$

3.5

※1)1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。

(例)評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2)数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii)取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.5

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

4.2

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

-

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.3

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

5.0

III 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.0

・世界的なカーボンニュートラルが進むなか、特に成長著しいアジア地域で環境技術を活用した産業拠点の構築は今後も期待したい。また地政学リスクが高まり不確実性の世界情勢において、自主的に管理できない部分も考慮し判定していく必要がある。

・年間売上高は、実績値自体が横ばい(令和5年のみ傾向が異なるが)であり、目標値の設定が野心的過ぎたのではないかと思われる。目標値からの乖離が続く場合、当初設定した目標値が現実的なものだったかどうかを検討することも必要。企業数についても、実績値は順調にほぼ同率で増え続けており、問題は目標値の設定にあるのではないかと思われる。財政支援は「導入効果」が顕著なものであり、年度を経ると減少するのは仕方がないが、二年度続けて0件になったことの分析が欲しい。税制支援も同様に経年とともに減少してきた中、令和3年度以降、一定数を保持しているのは評価できる。金融支援についても同様であるが、平成30年度以降1件又は0件が続いている、分析及び見直しが必要と思われる。

・国際連携や産業集積が進展し、経済効果や雇用創出に寄与。制度活用による企業誘致や地域活性化が評価に値する。一方、分野間の成果差や制度依存が残り、持続性に若干の懸念があるように思う。また、生活面への波及や質的評価において改善が必要と思われる。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.0

総合評価

3.9

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。